

イシカワシラウオ（地方名：シラウオ）



生態

- 分布・移動：青森県から和歌山県までの太平洋、瀬戸内海に分布します。水深20m以浅の砂底に生息します。
- 成熟・産卵：オス、メスとも1年で全長7cmほどに成長し、成熟、産卵後に死亡します。産卵期は2～6月で、5～6月がピークです。水深5m前後の粗砂底に産卵します。
- 食性：小型動物プランクトン（カイアシ類、アミ類）が主体です。

漁獲の動向

冬から春に漁獲されるため、12月～4月を漁期年として統計値を整理しています。

船びき網のピークは2月上旬、さし網のピークは4月中旬です（平成12～20年平均）。平成12年から21年までの平均値は23.0トン、8,246万円です。長期変動をみると昭和61、62年、平成6、8、12、19年に水揚げが減少しており、増減の周期は6～7年であると考えられます。

震災後、操業自粛と国による出荷制限のため水揚げはありませんでしたが、平成26年から試験操業が開始されました。漁獲量は5.3～68.5トン、漁獲金額は44～54百万円（H25～29年は相対取引のため、漁獲金額データなし）で推移しています。漁獲量は平成29年から増加して、令和2年には昭和59年以降最高の68.5トンの水揚げがありました。令和4年の漁獲量は25.6トン、漁獲金額は39百万円でした。

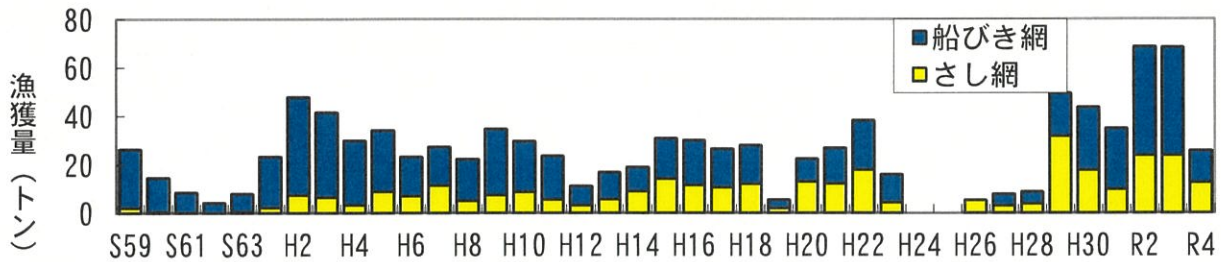


図1 イシカワシラウオの漁業種類別漁獲量

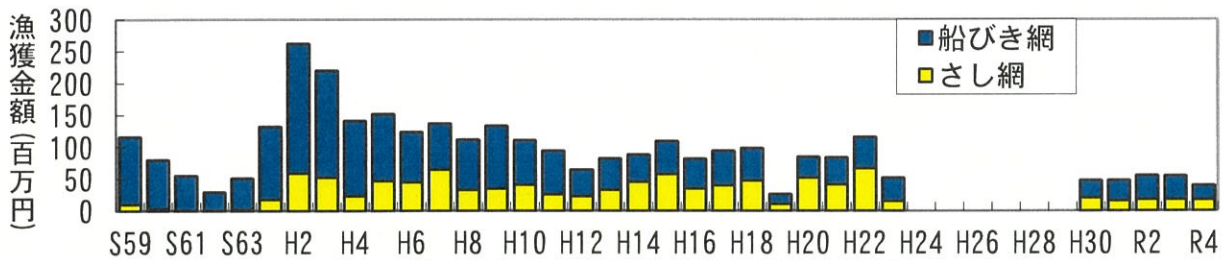


図2 イシカワシラウオの漁業種類別漁獲金額

H26～H29年は相対取引のため漁獲金額データなし

資源の状態

○イシカワシラウオは年魚であるため、資源状態は前年における親魚の産卵数に大きく左右されます。

資源の水準：不明

資源の動向：不明

現在実施されている管理策

漁業者の取り決めで船びき網は12月～3月、さし網は2月～4月を操業期間としています。

今後考えられる管理策

終漁を早めることで、成熟、産卵する親魚数の減少を抑えることができると考えられます。

安定した産卵を促すため、産卵場と考えられる海域に禁漁区を設定することが考えられます。